

[月刊] 1988年6月18日第三種郵便物認可

トマ喰い虫

〒150 東京都渋谷区渋谷2-5-9 ハル青山502

☎03(498)6095/045(563)5101

トマ喰い虫社

FAX. 045(563)9907

No. 59
90.9.20
定価 100円

トマホーク艦モービルベイに迫る平和船団 (7.30 ヨコスカ)



トマ喰い虫社分室の電話
とFAX番号変りました
●新番号 電話 045(563)5101
FAX 045(563)9907
郵便振替口座名も変更
●新口座名 「トマ喰い虫社」
お間違えなく!

平和船団の夏/スウェーデン、第二のニュー
ジーランドに! / 激動する太平洋 (ロペティ
・セニトゥリ) / イラク事態と在日米軍基地
/ 各地から

(再生紙使用)

[発行] トマホークの配備を許すな! 全国運動

●維持会員 (月間会費)
団体 1口 2000円
個人 1口 1000円

●参加会員 (月間会費)
団体 1口 1000円
個人 1口 500円

●通信会員
年間 1口
2000円

あなたも仲間! (会費は本誌購読料を含みます)

アジアの労働者が溢れている。力と力の対決は、銃火を交えることなく、これだけの犠牲者をうみだしているのだ。くりかえそう。
「良い軍事介入」など、ありはしないのだ。多国籍軍は直ちに撤退し、解決をアラブの

在日米軍基地の動き



佐世保

◆八月十九日 午前、戦車揚陸艦「サンバーナデューノ」出港。
◆八月二十日 午前、戦車揚陸艦「セネクタディ」、海難救助艦「ブランズウィック」出港。
◆八月二十二日 午前九時、輸送揚陸艦「デビユーク」、海難救助艦「ビュフォード」出港。
(以上「長崎新聞」八月二十、二十一日)

岩国

◆八月半ばまでに、第三海兵機動展開部隊の第一海兵航空団所属の攻撃機がフィリピンを経てペルシヤ湾に向かった。(「共同」八月十五日)

人々の手に委ねるべきである。日本政府は、多国籍軍への援助を撤回し、難民救援を骨子とする真の「貢献策」を講ずるべきである。
アラブを石油産出地帯としか見ない「先進国」の民衆は、いつしか、アラブ内部の矛盾

横須賀

◆八月二十日 第七艦隊旗艦「ブルーリッジ」は、アラビア海展開の艦船を指揮するため、横須賀を出港。予定されていたウラジオストックへの親善訪問への参加は中止された。一方、横須賀海軍司令部は、横須賀停泊の艦船の長期(四八時間以上)修理を延期した。
◆八月二十三日 原子力潜水艦「バーミンガム」と「アスプロ」が五〇メートル沖合で一時的停泊。「バーミンガム」は、陸から出たランチよりブラック・ボックスを受け取る。中東の動きにに関連あるとの観測。(八月二十四日「朝日」)

上瀬谷

◆八月二日 通常は太平洋を向いている衛星通信用アンテナがインド洋の方角に向きを変えた。(上瀬谷基地はいらないウドの会)

沖縄

◆八月八日 嘉手納の第九六一空中管制飛行隊のAWACS(早期空中警戒機)が飛び立つ。第三海兵機動展開部隊の地上部隊三〇四〇〇人がこの日以降、嘉手納から輸送機で中東に飛び立った。(八月十五日「共同」)
◆八月二十三日 ホワイトビーチに停泊中の輸送揚陸艦「デビユーク」に兵員や軍需物資の積み込み始まる。(八月二十四日「共同」)
◆トリイ・ステーションのグリーン・ペレー(第一特殊部隊軍空挺第一大隊)も中東に派遣される模様。(八月二十四日「共同」)

●皆さんの近くにある基地の動き、どんな小さなことでも(自衛隊を含めて)知らせてください。(編集部)

まとめ ●青木雅彦(京都・反トマ運動情報センター) / 編集部

ヒロシマ

ヒュイットの入港に抗議して、広島では「ピースリンク広島・呉・岩国」の市民二十人が正午から一時間原爆ドーム前で座り込みを行った。

という(九月九日「京都新聞」)。

「経済優先」の流れの中で、あらためて日本海が注視されている。しかしそれは、本当に平和への道、日本海をなだちに対岸の人々と共に生きようとする未来とつながるものなのか。舞鶴では、対潜水艦ヘリコプター基地建設計画を中心に軍事基地の強化が進む。リゾート化、そして超大型石炭火電の建設計画と、この地域の生活と海と大地をねこそぎ破壊する計画が、手をたずさえて進められている。

◆ 私たちはこの八月二五、六日、「日本海を平和の海に！子供たちに夢と希望を！」をスローガンに昨年につづく二回目の舞鶴・戸島集会を持った。「軍事化でも、リゾート化でもなく、豊かな海を生かした舞鶴の再生を！」とは昨年戸島での集会を提案され、この地で平和な舞鶴を希って生き闘ってこられた、今は亡き蒲田巖さんの言葉である。今年の戸島 (八ページ中段へ)

(三ページから)
ちがっていた。モービルベイの入港抗議行動を「見た」上層部が、「何のための警備か！」と横須賀の保安庁を批判したという。で、今回はあらかじめ、阻止線を張るとももって言われてしまう。それ以外にも、グリーンピースのエンジンボートが転覆するとか、船団長が操船したエンジンボート「A号」が初航海で、慣らし運転に徹したとか、いろいろ悪条件が重なったため、保安庁の厚い阻止線を突破するのは容易ではなかった。ただ一つ自由に動けたエンジンボート「モア号」は両脇を巡視船と保安庁のゴムボートにはさまれてのサンドイッチ規制。残る九隻のゴムボートが必死になって保安庁の船をかくぐってヒュイットに近付こうとするが、保安庁は体あたりまでしてくる。最後は海に飛び込んでの抗議も空しく、ヒュイットの入港を阻むことはできなかった。

● ● ●
トマホーク艦の入港を止めることはできなかったが、今回の海上行動が平和船団にとって画期的であったことは間違いない。グリーンピースとの共同行動も学ぶことが多かった。非暴力直接行動が私たちの町でどのように入られるのか、課題も多い。一番大事なことは、「平和船団」の直接行動が「その日」の運動だとすれば、同時にともめられている

舞鶴でおもう

平和の海

(タイトルは編集部)

「ノートマホーク」(トマホーク阻止京都連絡会発行)第三四六号(九月十日)より転載。

◆ 「来年四月にゴルバチョフソ連大統領の来日が決まるなど日ソ関係改善が急ピッチで進んでいるが、こうした流れに歩調を合わせ、日本海を挟んだ自治体経済外交が一層盛んになりそうだ。／新潟と並び(ソ連との)定期航路の確保に力を入れているのが京都府。荒巻嶺一知事が一昨年八月、モスクワを訪問し、ソ連極東地域最大の港、ボストーチヌイ港間のコンテナ航路の設置を要請した結果、昨年三月から月一便の入港が始まった。また、今年三月からは韓国・釜山間に週一便のコンテナ船が就航し『舞鶴を基点にソ連、韓国との三角貿易を発展させたい』(舞鶴港振興会)

激動する太平洋

一九八七→九〇(I)

ロペティ・セニトゥリ
PCRRC (太平洋問題資料センター)
事務局長
(タイトル、中見出しは訳者)
「パシフィック・ニューズ・ブレティン」
九〇年五月号より



●十一月月上旬、第六回非核独立太平洋会議がアオテアロア(ニュージーランド)のオークランドで開催される。非核独立太平洋運動(NFIP)の機関紙「パシフィック・ニューズ・ブレティン」五月号に掲載されたこの記事は、この会議に向けて、前回の会議(八七年・マニラ)以降の太平洋の動きを概観したものである。今号と次号の二回にわたってその全文を紹介したい。筆者のロペティ・セニトゥリ氏は、トンガ生まれ。現在NFIPの常設事務所である太平洋問題資料センター(PCRRC・オークランド)の事務局長(ゼネラル・コーディネーター)をつとめ、太平洋諸島の運動の連携をつくるために精力的な活動を展開している。(訳 田巻一彦)

第五回非核独立太平洋会議は一九八七年十一月マニラで開催された。そこにいたるまでの開催地はポート・ヴィラ(バヌアツ、一九八三年七月)、ホノルル(ハワイ、八十年五月)、ポナペ(ミクロネシア連邦、七八年十月)、スバ(フィジー、七五年七月)である。そして第六回会議が一九九〇年十一月、アオテアロア(ニュージーランド)のオークランドで開催されようとしている。

三年ごとに開かれる非核独立太平洋会議は太平洋で正義と平和と解放のための闘争に携わる諸組織の代表者たちが、一同に会して意見を交わし、運動の前進を評価し、未来への戦略を練る唯一の機会である。これらの大多数は太平洋に基盤を持つ組織だが、世界中の他の地域からの支援/連帯グループの参加も増加しつつある。

前回の会議以来、太平洋では、事件の数と頻度においても、また過酷さと規模の広がりという意味からも、重大でかつこれまで経験したことのない、目覚ましい状況の変化があった。

カナーキー(ニューカレドニア) 独立運動への試練

一九八八年はフランスからの独立を闘うカナーキ人民にとって重大な危機の年であった。八八年五月に起こった、フランス兵による二十二人のカナーキ人虐殺事件は、太平洋におけるフランスの植民地政策の残忍さをあらためて物語る事件であった。この事件のあと同年に行われた、「マティニオン合意」の署名と批准は一つの画期的事件であった、しかし、そこに書かれたとおり、カナーキ独立が一九九八年に実現するかどうかには、多くの不確定要素がある。八八年に起きた独立運動の指導者ジャン・マレー・チボー、イエイウエン・イエイウエン射殺事件と、その犯人でやはり独立運動の活動家であるジュベドリー・ウエーの殺害事件は、カナーキ人民の民主的政府樹立にとって、痛ましい教訓となった。一九九八年への道には多くの難関が待ち受けている。そして、人民はどんなことがあっても団結を維持して、そこに到達しなければなら

フランスの核実験 つづくタヒチ

一九八八年、ムルロアおよびファンガトファアにおけるフランスの核実験に反対するタヒチ(ポリネシア)では、教会と多数派政党との間の歴史的な対話が成立した。一九八九年のテ・タビニ・ヒユイラティラの青年たちによるハンガー・ストライキの結果、領域議会に、核実験計画を将来受け入れるかいなかを検討するための特別部会を設置することが約束されたのもまた画期的出来事である。フランス政府はカナカ・マオヒ(ポリネシア系住民)が、(カナーキーにおけるカナク人とちがって)明白な多数派住民であることを充分認識している。したがって、住民の間に独立支持の感情が広がることを阻止しようと躍起である。八九年中頃、フランス政府は核実験回数の削減を宣言したが、そのあとすぐにファンガトファアの実験場の使用を再開した。同年十一月には一一一回目の核実験が行われた。

ペラウ人民の格闘

パラオ(ペラウ)人民とアメリカ政府の間、のダビデとゴリアテのような格闘も依然とし

て続いている。一九九〇年二月に行われた七

度目の住民投票において、ペラウ人民はまたしてもアメリカとの「自由連合協定」を拒否した。アメリカ政府は十年にわたって、自らが必要と認めた場合にはペラウ領土に核兵器を持ち込む権利を得ることによって、ペラウ憲法の非核条項を骨抜きにしようと策してきた。その過程で、二人の大統領と反核運動の活動家ベドール・ピンス氏の生命が銃弾によってうばわれたのを初め、ペラウ人民は多大な身体的、精神的苦痛を強いられてきた。

アメリカ政府はしかしながら、「協定」承認を財政・開発援助付与のための必要条件とする事によって、依然として優位に立っている。パラオ政府の指導者は、七五%ではなく、単純過半数の賛成で「協定」を承認できるように憲法を改正するという手段をとることをほのめかしている。非核憲法は一九七九年、九二%の有権者の支持によって成立した。この憲法が改正されるとすれば、それはペラウ人民のみならず、すべての太平洋民衆に対する、凶悪な攻撃となるだろう。



クワジエリンでの

SDI実験

さらに東に目をむければ、アメリカ陸軍戦略防衛司令部が、マーシャル諸島のクワジエリン環礁でSDI(スターウォーズ)計画に関連する十以上の技術の実験を行っている。アメリカは、スターウォーズ実験以前から、クワジエリン環礁のラグーン(とその周辺!)をカリフォルニア州バンデンバーグを発射基地とする大陸間および海上発射弾道ミサイル実験の着弾地として使用している。

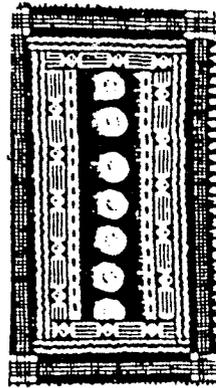
トマホーク配備

一九八七年十一月のINF条約によってヨーロッパと極東に配備された中距離核ミサイルは撤去されたが、それを十分に補うだけの核ミサイルが太平洋には配備されてきた。海上発射巡航ミサイル(トマホーク)を搭載した米艦ファイフとバンカーヒルが現在日本の横須賀を母港としている。トマホーク搭載艦のアメリカ領土外の母港はこれが初めてである。ソ連はこれに何らかの形で対抗することを公に宣言している。

(次ページにつづく)

くりかえされる 合同軍事演習

一九八九年九月、アメリカは第二次世界大戦以来最大の軍事演習PACEXを太平洋でおこなった。この演習にはタイ、シンガポール、日本、韓国、カナダ、オーストラリア、およびフィリピンの部隊と艦船、航空機が参加した。このPACEXを最大のものとして、他にもアメリカは太平洋の同盟国との間で、おびただしい数の「演習」をおこなっている。例えば米韓合同演習「チームスピリット88」には、二〇万の兵力が参加し、上陸演習、爆撃と艦船による対地攻撃、対潜水艦作戦、奇襲部隊および特別部隊による緊急展開作戦、核・化学作戦の実地訓練がおこなわれている。一方、リムパック88には、カナダ、オーストラリア、日本が参加し(イギリスは参加を見送り、ニュージーランドは参加を拒否された)、同じような演習をより不穏なスケールで行っている。



太平洋にはワルシャワ条約やNATOのような同盟は存在しない。しかし、太平洋の全ての西側主要国の軍機はホルルのアメリカ太平洋統合軍司令部(CINCPAC)に(五ページから)

集会は、蒲田さんの一周忌にもあたる。蒲田さんが私たちに残された、「日本海を平和の海に!」その「平和」とはたんに「戦争」だけでなく、経済優先の流れが人も大地も殺している暴力も含めて、人が海に生かされ、日本海が対岸の人々とのなごだちの海となり、その中で子供たちが本当に夢と希望をもっていきられる、そうした舞鶴の再生のことであつたと思う。

昨年の戸島集会以後、また私たちは多くの人々に出会うことができた。舞鶴湾の入り口にあたり、閃電が石炭火力発電所の建設を予定している浦入やこの火電から出る石炭灰の処理場とされるなかで、「この海を破壊と汚染から守り、子孫に残すことは、他の全てのものを失っても、その価値には替えがたい」と、全戸をあげて反対決議をあげる平地区の人々。火電温排水排水口に予定される瀬崎で、「原発も石炭火力もいらない」と無農薬のみかんをつくり、この地で自立して生きる人々。さらに、舞鶴だけでなく、新潟で初の日米共同演習が今年二月に強行されたことをき

直結している。ソ連もまた北太平洋において単独で定期的に軍事演習を行っているが、ソ連はこの地域には、ベトナム以外に実質的な同盟国を持っていない。 ◆つづく

かけに、反基地闘争のネットワークが呼びかけられ、「日本海を平和の海に!」の思いをともにする横のつながりが、新しく始まった。

◆ ◆
今年の戸島集会は、こうした瀬崎や、舞鶴市内で、あるいは新潟で、それぞれの場から生きた人々、さらに小松、泉州、京都市内から参加をえて、二日間の平和のための交流集会をもつことができた。石炭火電建設計画の現状と反対への思い、ヘリコプター基地建設計画の意味と米前方展開戦略を支える日本の基地強化、反基地ネットワークの試み、小松基地ファントム訴訟の現状など集会での発題や交流会の内容など、詳しくここでは紹介することはできないが、この集会を通して、今もう一度「日本海を平和の海に!」ということの意味を考え直したい。

この戸島集会の最中にも、二十五日、四隻目のトマホーク艦「ヒューイット」が市民の反対を押し切って入港した。集会では、これに対する抗議・糾弾の決議をあげた。(津田光太郎・トマホーク阻止京都連絡会)

反核ホット ライン 29

だより

入港情報

90・8・21・9・20
P級 (原子力潜水艦パーミット級)
S級 (原子力潜水艦スタージョン級)
L級 (原子力潜水艦ロサンゼルス級)

(8・23) パーミンガム(L級) 午前七時50分 横須賀に入港 30分後に出港
アスプロ(S級) 午前八時30分 横須賀に入港 約10分後に出入港

(8・24) パーミンガム(L級) 午前10時 横須賀に入港
アスプロ(S級) 午前11時40分 横須賀に入港

(8・30) パーミンガム(L級) 午後1時

(9・5)	時 横須賀を出港 パツファロー(L級) 午後1時40分 横須賀に入港
(9・8)	時 横須賀に入港 アスプロ(S級) 午後4時
(9・10)	時 横須賀を出港 同日午後9時入港 アスプロ(S級) 午前10時
(9・13)	時 横須賀に出港 アスプロ(S級) 午前10時
(9・19)	時 横須賀を出港 パツファロー(L級) 午前10時

トマホーク原潜故障す

*1990年9月20日現在各港への原子力艦の入港回数は、
横須賀 20回(うち原潜20回)
佐世保 1回(うち原潜0回)
ホワイトビーチ 9回(うち原潜9回)
計 30回(うち原潜29回)

9月10日、午前10時に出港した原潜アスプロ(S級)が、同日午後5時に再入港したのは、「飲料水製造ポンプの故障」とのこと。当然、予定以外の入港であり、24時間前の通告体制はとられてはいない。またしても規則やぶりである。ちなみに同艦は、核トマホーク配備対象艦である。



台風が 入港を阻む?

日本列島各地で大きな被害を残した台風19号が、原潜の横須賀入港を阻んだ。これは、原潜アスプロ(S級)が、19日午後0時30分ごろ入港予定で、外務省にも通告しているにもかかわらず、台風の影響で入港できなかつたようである。外務省からは、「天候の都合により入港が中止された」という連絡が地元横須賀にはいった。
ちなみに、同艦は、トマホーク配備対象艦である。

原子力艦入港情報 テレホンサービス

ブッシュホンで、まず **井8301**、そして連絡番号 **968・1071**、次に暗誦番号 **1071**

クロハ イレナイ

読者から



◆皆さんの便りをお待ちしています。紙面への感想、批評、ご意見、身のまわりの耳より情報、運動への提案、アヒール、内容は自由です。同封の読者カードをご利用下さい。ハガキでは足りないゾ、という方も大歓迎。最大二〇〇〇文字を目途に投稿して下さい。お名前を紙面に載せて下さい。あるいはペンネームを明記下さい。ご指示が無い場合にはインシヤルで紹介させていただきます(編集部)。

●残暑お見舞い申し上げます。「イラク制裁」の名で再びアメリカが朝鮮戦争の過ちを繰り返さないよう願うばかりです。

インディペンデンスの横須賀母港化はいよいよもって阻止しなければの念を深くするものですが、一般的に何事も「他人事」「対岸の火事」視の日本人の傾向は何としたものでしょう。

まずは(ヒュイット入港)に抗議ハガキ出しました。英文を同封します。

Dear Sir,

People all over the world are praying for peace and the ending of nuclear age. We strongly protest against the coming of the Hewitt Landing with "Tomahawks" to Yokosuka.

Don't use Yokosuka as her homeport.

-From citizens of the world.

(世界中の人々が平和と核時代の終りを

念願しています。私たちはトマホークを積んだヒュイットの横須賀入港に強く抗議します。横須賀をヒュイットの母港にするな。世界の市民から)

なお、ホワイトハウスにも九十円で着きますので、同文で出したら如何かと思考中。

抗議電話もするつもりですが、今までいつしてもどこでもお話中の事がないのは些かガッカリします。皆で電話を不通にする位ダイヤルを回したいものです。

先日「無理」を覚悟でノコノコ横須賀まで参りましたが、思いの外の「後遺症」で閉口。残念ですが、今回は見送らざるをえません。悪しからず。皆様方のご健闘を祈ります。(斎藤美智子/東京都国分寺市)

●No 58「良い軍事介入などない」。こういう世論がなぜ大きくならないのか。マスコミはもちろん社会党までがフラフラし、民社党、

西平和共存・南北互助共栄する青い地球を二十一世紀を生きる子供たち、孫たちに残したい一念で反戦・平和・反核・反安保・非同盟中立・第三世界連帯の草の根市民運動に努めます。月刊トマ喰い虫も五十八号。続けることがいいことだと思います。(安藤重伸/反戦平和市民運動/横浜市)

●いつも最新の反核・平和の情報をありがとうございます。これからもご協力できますこととはさせていただきますので、お知らせ下さい。合掌

(武田隆雄/僧侶/東京都)

●戦争でツライ思いをした話を若い人に聞いてもらおうとは思いません。そんなグチは自分だけのものでも、危険をウスウス感じながら目をそらして抵抗もせず、ズルズル巻き込まれていったイクジ無さは、若い人たちと一っしょに悔やみたい。あなたもボクたちと同じ怠慢であってほしくないから……。(乾 孝/心理学・マスコミ論/鎌倉市)

●名簿がダブっているのでしょうか、いつも二通届きます。郵送料がもったいないので、名簿整理して下さい。近ければ、お手伝いできるのですが残念です。アラブ世界のメモゴ

トに米国が介入し、日本と一緒にやらないのはケシカランと圧力をかけられ、オタオタしている政府に全く情け無くなります。第三次世界大戦にならないように、日本政府に「しっかりしてよ!」と言いたい。(川北寿子/年金生活者/豊中市)

●いつも真実を率直に伝えるご努力と勇氣に敬意を表します。梅林さん、ご健闘をいつもお祈りしています。(森田宗一/弁護士/東京都)

●「社会を見直すメガネ」(国土社・松崎重広著・板倉聖宣監修)は大変よい本です。お子様向きの本ですので、皆さんのお子様によませてはどうですか。(トントンカン/運転手/東京都)

●厚木基地の近く(徒歩五分)に住んで十年になる。今日もジェット戦闘機が爆音をたてて飛びかっている。そのジェット機の音の聞き分けができるようになった。かつて革命闘争下のカンボジャでの体験を思いおこす毎日だ。当地に住んでいると、ジェット機の音によつて世界中の軍事情勢が判断できるようだ。まさに戦時下にいるようで、いや事実そうなる。(十二ページ下段へ)

公明党がこういう時に馬脚をあらわしてくる。日本は憲法によつて自衛隊派遣できないが、多国籍軍、国連軍の軍費にわれわれの税金を支出するとは何事だ。あらゆる階層の良心に訴えて、あちこちでノロシをあげるよう働きかけて下さい。私は病気で動けない(84才)ので一言お願いを。(つづらわたる/東京都小金井市)

●八月七日から二十日まで、私の住む地域(熊本県八代市)では昨年に続き二回目の「平和のひろば」を開催しました。主に小学校の体育館を巡回したので、子供達や家族連れがたくさん見に来てくれました。私は「核兵器と日本の軍縮」のパネル作りを担当し、また、いまや日本は世界の軍事大国になってしまっていること等を学びました。今、イラク問題で自衛隊派遣も検討されています。力の論理ではなく、平和主義を徹底して貫く姿勢が問われていると思います。(小林みどり/施設職員/八代市)

●ソ連・東欧のペレストロイカで社会主義優位の神話の崩壊・社会主義の全般的危機と民主主義の再生する世紀末を迎えようとしています。世界軍縮・地球環境第二年の今年、東

●編集から、版下作り、印刷まで「トマ喰い虫」はすべて手作りです。ミニコミ作りに興味がある人、平和運動の新しい話題にふれてみたい人、イラストやデザインをいっしょうやってみようか、と思ってる人。ワープロ打ちならまかせなさい。あるいは覚えてみようかな、なんて考えているひと。新しい友との出会いを願っているあなた! いっしょにやってみませんか。
●月に一度の発送も大事な仕事です。一度のぞきにきてください。ちょっとの時間でも手を貸してもらえたらうれしいです。毎月20日直後の日曜日、日吉のトマ喰い虫社分室です。(東横線日吉駅下車歩いて7分/☎045(563)5101)

次回は

10月21日(日) 午後2時から

トマ喰い虫をいっしょに作りましょう

スタッフ、助っ人大募集!



反トマホーク運動

第12回

全国会議

i n
横須賀
のご案内

11月3日(土・文化の日) 午前9時30分開会
フォーラム:

ポスト冷戦時代の日本の 反核反基地運動

①ポスト冷戦: 何がかわり何がかわらないか(9:30から) / ②各基地と運動の状況(13:00から) / ワークショップ: 反核反基地運動に何ができるか(19:00から)

[問題提起] 海棠新/梅林宏道/前田哲男
吉川勇一/ほか

[会場] 9:30~17:30 横須賀教育会館
19:00~22:00 横須賀平和センター

11月4日(日) 午前9時30分開会
会議: 行動プログラム

[会場] 横須賀教育会館
[参加費] 2500円(資料代含む)
[宿泊費] 一泊2000円(軽朝食付き)

●朝8:00から、浦郷弾薬庫の見学もあります。朝8時
京浜急行「追浜」集合

詳しくはトマ喰い虫社までお問い合わせを

会計報告

(90.8.18~9.12)

[収入]

○前月からの繰越	△ 91,409
経常繰越	158,591
借入金繰越	△250,000
○今月の収入	172,910
会費収入	92,000
内	
維持団体	0
維持個人	37,000
参加団体	0
参加個人	4,000
通信会員	51,000
カンパ収入	32,000
行動収入	11,000
資料収入	0
反核ホットライン収入	37,910
アンケート調査収入	0

[支出]

●今月の支出	196,768
家賃	30,000
水道光熱費	11,076
電話代	7,426
郵送費	40,531
文具代	0
印刷費	20,067
行動費	85,178
資料経費	0
反核ホットライン経費	720
アンケート調査経費	0
郵便振替等手数料	1,770
●次月への繰越	△115,267
経常繰越	134,733
借入金繰越	△250,000

月刊トマ喰い虫第五十九号
一九九〇年九月二十日発行(通巻六〇号)

*発行 トマホークの配備を許すな! 全国運動
〒一五〇 東京都渋谷区渋谷二一五一九
バル青山五〇二 トマ喰い虫社
☎〇三(四九八)六〇九五
〇四五(五六三)五一〇一
FAX〇四五(五六三)九九〇七
郵便振替 東京六一三六一四八
*編集 トマ喰い虫編集委員会
*定価 一〇〇〇円(通信会員年間二〇〇〇円)

●残暑きびしい中での皆様の活動、感謝、感激、言葉もなし。年齢に負けまいと、ゴマメのはぎしりも限度。切手少々同封して私の気持ちをおとどけたいします。
(S・M/横浜市)

(十一ページから)
のかもしれない。梅林氏の「隠された核事故」(創史社)を読み、あらためてそう思った。貴運動のご健闘を期待しています。「追伸」通信は「横書き」が読みやすいです。
(猪野修治/教員/大和市)

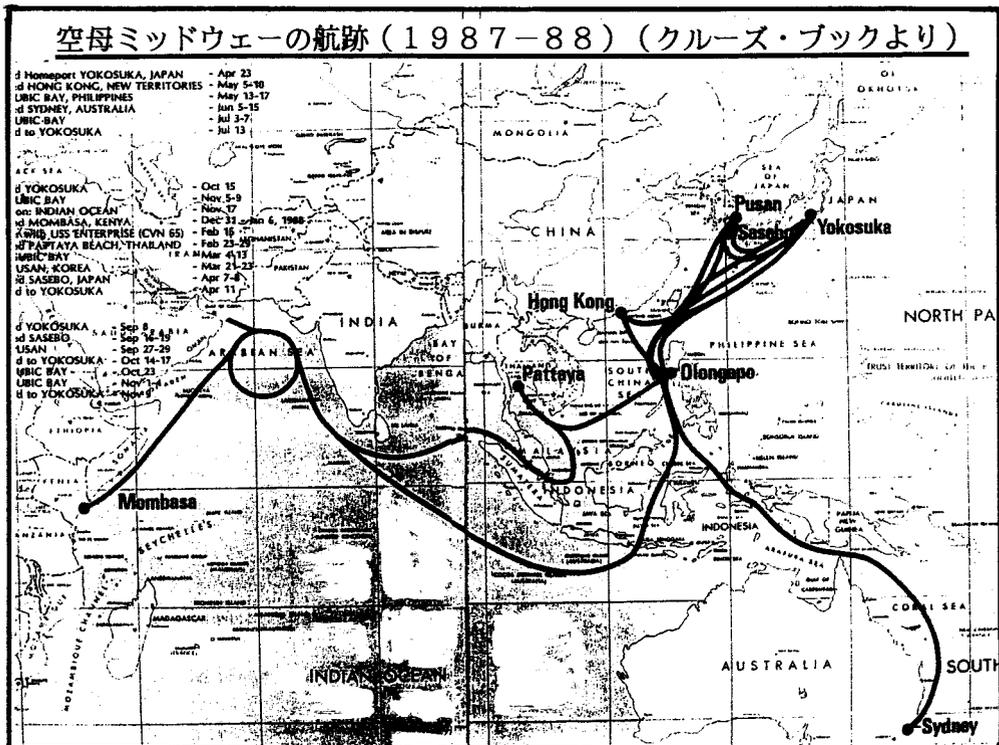
●何のご支援も出来ず、いつも心苦しく思っております。これからも社会に向けて良心の声となつて下さい。
(Y・N/名古屋市)

トマホークの配備を許すな！全国運動

第 12 回 全 国 会 議

1990年11月2日(金)、3日(土、文化の日)、4日(日)

横須賀教育会館／横須賀平和センター



空母インデペンデンスより平和へのインデペンデンスを！

発行：トマホークの配備を許すな！全国運動 〒150 東京都渋谷区渋谷
2-5-9 パル青山502 トマ喰い虫 03(498)6095、045(563)5101

やっと秋らしい霽田気になりましたが、どこか例年と違う気候が気になります。中東危機の行方は混沌として、日本社会に激しい変化を引き起こそうとしています。そんな中で、スウェーデンの仲間から、2年以内に第二のニュージーランドになると決定した社民党（政権党）大会の生々しい報告が飛び込みました。

今回の反トマ全国運動の全国会議は、急速に変化する世界の中で日本の反核・反基地運動の役割と今後の方向を問い直すテーマを立てて開くことにしました。反トマ全国運動は、自律的な地域グループや個人のネットワークで、全国会議と云っても自由でオープンな運営を心掛けています。

今回は特に11月3日の「フォーラム：ポスト冷戦時代の日本の反核反基地運動」を中心に活発な討論を期待しています。是非、ご参加下さい。

11月2日（金） 19：00～ 横須賀平和センター（船越教会）

準備会議 運営委員を中心にテーマの整理と諸準備の相談。運営委員以外の参加も自由。

11月3日（土） 9：30～17：30 横須賀教育会館
19：00～22：00 横須賀平和センター

フォーラム：ポスト冷戦時代の日本の反核反基地運動

①ポスト冷戦：何が変わり何が変わらないか（9:30～12:00）

問題提起 デタント後の米ソ世界戦略 海棠 新
デタント後の太平洋 梅林宏道
デタント後の自衛隊 前田哲男
（休憩 5分）
討論

ランチ・タイム（12：00～13：00）

②各基地と運動の状況（13：00～17：30）

第一部（13：00～15：00）
沖縄／九州（鹿屋、鬼界島、えびの）／佐世保／岩国／呉／
日本原／舞鶴／小松／依佐美・小牧
（休憩 30分）

第二部（15：30～17：30）

上瀬谷／横田／立川／厚木／相模原・座間／横須賀／新潟／
三沢／北海道

夕食・移動（90分、会場の教育会館から5分の横須賀中央駅周辺で、それぞれに夕食をとって18：30分に駅前に集まる。揃って電車で次の会場、横須賀平和センターに移動する。）

③ワークショップ：反核反基地運動に何ができるか（19:00～21:30）

問題提起 湯浅一郎（トマホークの配備を許すな！呉市民の会）
新倉裕史（非核市民宣言運動ヨコスカ）
吉川勇一（市民の意見30の会）

自由討論

11月4日（日） 8：00～9：30 基地見学
9：30～15：00 横須賀教育会館

フィールド・ワーク：浦郷弾薬庫見学（8：00～9：30）

集合：京浜急行「追浜」駅 8：00
（平和センターにとまった人は平和センターから車で移動）

会議：行動プログラム（9：30～12：30）横須賀教育会館

経過説明 湯浅一郎
提案 日本の非核化戦略 小原直樹（グリーンピース・ジャパン）
インデペンデンス母港阻止 新倉裕史
コモンデイトなど 田巻一彦（月刊「トマ喰い虫」編集長）
その他
討論

実務会議 13：30～15：00 横須賀教育会館

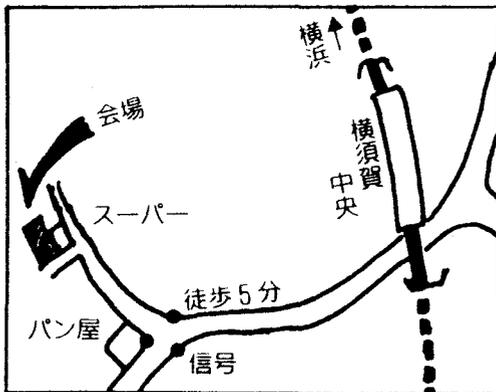
議題提出 各コーディネーター
討論

記者会見 15：00～16：00 横須賀教育会館

■会場案内

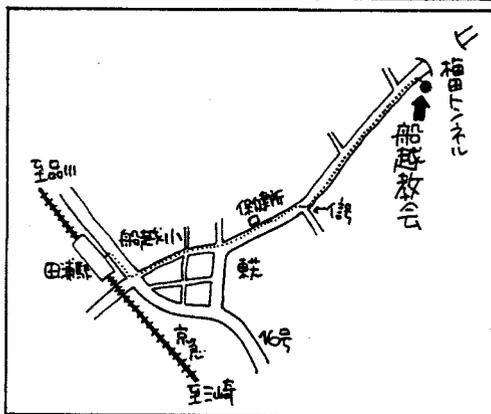
横須賀教育会館

(京浜急行「横須賀中央」下車、徒歩5分。快速特急で品川から45分、横浜から20分。新幹線の場合は新横浜から地下鉄に乗って「上大岡」で京浜急行に乗り換えるのが便利。)



横須賀平和センター(船越教会)

(京浜急行「田浦」下車、徒歩15分。各駅停車しか止まりません。「金沢八景」で各駅停車に乗り換えて下さい。新幹線の場合上記と同じ。)



■参加費 2,500円(通しの参加費。資料代含む。遠距離参加者への交通費一部分担を含む。2日だけの参加者も同じ。)

■宿泊 横須賀平和センターに泊まります。1泊2,000円(軽朝食付き)

■ワークショップ 3日夜のワークショップ「反核反基地運動に何ができるか」は、交流を兼ねてビール・ジュースを囲んで行ないます。その参加費は別途1,000円です。

■配布資料 各地、各グループ・個人の報告時間が限られているので、出来るだけ資料を用意して補うことを呼び掛けています。その場合、資料は60部ご用意下さい。10月25日迄に版下を送って頂ければ、事務局でマスプリを致します。

■参加申し込み 参加される方、特に宿泊希望の方は、10月25日(木)までに、トマ喰い虫社までご連絡下さい。通信に同封されている読者カードをご利用頂くと便利です。電話・FAX連絡の場合は分室の方が確実です。分室電話045(563)5101、FAX045(563)9907。

中東危機： 今こそ反戦の声を！

8月2日に始まるイラクによるクウェートへの軍事侵攻、併合という事態で日本の世論は騒然としています。戦後の日本の安逸に来るべくして来た黒船が襲ったのです。

この事態に私たち自身も立ち後れていることを認めざるを得ません。しかし、月刊「トマ喰い虫」に寄せられる通信や、私達のネットワークを構成している各地のグループの機関紙などを見ると、それぞれの個人やグループで、この事態に反応するさまざまな試行錯誤が始まっていることがわかります。

伝え聞く所によりますと、9月1日～2日にスエーデンのエーテボリで開かれたNAN（北大西洋ネットワーク、大西洋沿岸各国の草の根平和グループのネットワーク）の年会では、この問題で統一的な決議を採択するには至らず、それでも多くの参加者が文書にサインをしたとのことでした。

私たちの参加しているPCDS（太平洋軍備撤廃運動）でも討論が始まりました。しかし、この組織がネットワークの性格であり、各国の反戦平和運動の歴史も現状も違う中で何が最もPCDSとして貢献し得るかで試行錯誤しています。そんな中で、各地の議論を促す趣旨で一つの「まだ主人公のない」素材文書を回覧することになりました。

反トマ全国運動としては、とりあえず、私たち自身の考えを発展させる材料とするとともに、他の人々にも参考にしていただくために、これを翻訳してお送りすることにしました。ご活用下さい。添付しましたのは、

①p. 2～5 「1990年8月27日：地球規模の危機」（PCDSで回覧している素材文書）

②p. 6 カナダの1グループが、①の文書を採用し、それに添付して実際にカナダ国内で送付した時の頭書き文書。

1990年9月15日 トマホークの配備を許すな！全国運動

1990年8月27日：地球規模の危機

- * 米軍機が8分毎に若者と軍事資材を載せてサウジアラビアに降り立っている。
- * 8月の終わりまでに、20万人の米軍兵士がペルシヤ湾地域に配備されると見込まれている。
- * 米大統領は、議会の承認なしに20万人の予備役を召集する権限をもっている。9月以前に4万人の予備役がこの地域での作戦に投入されると予想されている。
- * 1兆ポンドを超える弾薬、武器、食糧その他の物質が、過去2週間のうちにペルシヤ湾の米軍に運ばれた。これは、これまでに米国が行った最大の空輸作戦である。この作戦を維持する直接経費は1日につき1460万ドルである。
- * 45隻の米艦隊が、海軍発射巡航ミサイル核モークを含むこの世で最も精巧な恐ろしい兵器を積んで、一触即発の状態にある地域の海に徘徊している。
- * 海軍航空隊を含めると、その地域の米軍機の数は全部で500機を超える。すべての米国の最新式のステルス攻撃・爆撃機がペルシヤ湾に配備されるであろう。
- * 米国は、その「致命的な利益」—安い石油を守ろうとしてサウジアラビアにいるのである。
- * 英国は、軍艦を送るのに加えて、英国に強い攻撃能力を付与するのによる攻撃型戦闘機トルネードをバーレーンに配備した。
- * 17万人にも至るイラク軍隊と1800台の装甲戦車が現在クウェートを占領している。イラクは、全部で6000の戦車と50師団と42の歩兵師団とそして500機の飛行機を動員することができる。
- * 298キロメートルの射程距離をもち化学兵器の搭載が可能なイラクのスカッド-Bミサイルが、占領下クウェートの外国の標的に容易に届く位置に配備されている。アルファセインミサイルは640キロメートルの射程距離をもち、これもまた化学弾頭の装備が可能であると信じられている。イラクは2,000キロメートルまで弾頭を運ぶ能力のある多種類の誘導ミサイルを持っていると理解されている。イラクは50トンの神経ガスと500トンの発癌剤を持っていると信じられている。またイラクはボツリヌス、炭疽、腸チフス、馬脳炎を含む生物兵器をも持っている可能性があるという理由もある。ジュネーブの核拡散防止条約会議の報告は、イラクは2年以内にミサイル発射式核兵器をもつ能力が判り、64月以

内に粗製の核兵器を生産する能力があることを示唆している。

- * イラクの軍隊は、選んだヨーロッパの大使館を包囲し、目下これらの大使館に関係した外国人の自由な通行を妨げている。
- * 8月2日のこの危機の始まり以来、18万5千人以上の土地を追われた人々が国境を越えてヨルダンへ流れている。
- * 世界は、払い落とすことのむずかしいイラクに対する「戦争気運」に突入している。(ミットラン・フランス大統領)

中東における不安定な状態の急速な拡大は、このような描写を刻々に時期遅れのものにするかもしれない。しかしこの浸透力のある潜行性の「戦争気運」がしだいに強まろうとしている今、それとは違う声が聞かれることが極めて重要である。黙っていることは同意する兆である。すべての場所にいる平和を愛する人々にとって、意志決定者に、イラクの国際法違反行為非難という一般的な意見の一致はあるかもしれないが、この危機を「解決する」手段としての暴力の使用に関しては意見の一致はないということを印象づけることが責務である。

私達は、国連安全保障理事会がイラクに対する経済制裁を課すことによって証明された、速やかな先例のない国際協力の行為に、勇気づけられてきた。この速やかな行動は、冷戦イデオロギーの束縛から解放された新しい国連を特徴づけている。この国連の新しい立場に孕まれているコンセンサスは、成熟する時を与えられれば、この危機を非暴力によって解決するための肥沃な土壌を提供することも可能であろう。また、このコンセンサスは、世界の他の地域における深刻な紛争の解決のためのモデルを打立てるものである。しかし、国連の制裁が効果とめぐる時間を待たずして性急で事実上一方的な米国の軍事的対応が、この新しい世界的コンセンサスを崩してしまいかねないことに、私達は重大な憂慮を抱いている。

ペルシヤ湾地域の米軍の規模は、純然たる防衛の目的に必要なものをはるかに超えている。この硬直した軍事的雰囲気の中でのささいな誤ちが意図しない戦争を引き起こすかもしれない危険は大きい。現在、言い表わせばよほどの人間の苦しみと、環境の破壊と、長期的に見れば世界の安全保障に対する悪影響をもたらし得る軍事衝突の可能性はすでに極めて高い。ペルシヤ湾地域の軍事化を強化しようとする米国の努力は、現在のこの緊張状態を更に増大させるものである。米国、ソ連、フランス、中国、イタリア、英国、ドイツによってもたらされた、イラクに蓄えられた武器と、その地域に固有の緊張が合わさって、いかなる紛争にも大量殺傷武器の使用を引き起こす可能性が生まれている。「素早い外科的な武力攻撃」を意味する「短くて鋭い危機」という

考え、歴史の記録を無視し、近代戦争の恐ろしい現実を過少評価し、危険なほどに非現実的なものである。

私達は、この危機に対する米国の暴力的対応が、その地域の他の国々の暴力行使 - それは破局的な結果を招くであろう - を正当化するものとして理解されるであろうことを憂慮する。私達は、米国軍隊の存在が、中東の文化的及び宗教的価値に無理解であった西洋の政策に対する長年の敵意を悪化させることになるに違いないと考える。

勸告

1. 私達は、この紛争におけるすべての当事者に、中東における現在の危機がこれ以上人間の苦しみや生命の喪失や貴重な資源の浪費と環境の悪化を抑制し解決出来るように、最大限の自制と寛容をもって振舞うことを要請します。
2. 私達は、すべての当事者に、国連を支援国連の権限の中で行動することを、そして政治的な解決がこの地域の恒久的な平和につながる唯一の希望であるとの認識をもって、現在の危機の話し合いによる解決を容易にする可能性のあるすべての組織を活用することを強く要請します。
3. 私達は、クウェートからのイラク軍の即時撤退を、強く要請します。
4. 私達は、イラクが、クウェートとイラクからすべての外国人が即時に出国することを許可しその便宜をよめること、そしてこれらの外国人の安全と健康を犯す行動をとりなすことを、強く要請します。
5. 私達は、米国及びその他の国の軍隊がペルシヤ湾地域から即時撤退することを強く要請します。
6. 私達は、イラクとの経済関係の中止(ボイコット)を呼びかける国連の決議#661を、そのようなボイコットの効果が明らかになるのは数ヶ月かかるという理解をもって、忍耐強く堅持することを、強く要請します。私達は、個々の国々が短期的な国内の自己利益よりも長期的な集団的で世界的な必要性に動機づけられて行動することを、強く要請します。

7. 万一、軍隊の駐留が国連決議#661を強化するために求められる場合、私達は、そのような強化が最小で抑制された軍事配備と別部隊であること、そしてこれが国連の権限と指揮の下にあることを、強く要請します。
8. 私達は、米国がイラクとクウェートへの食糧や薬の形の人道的援助の運搬を許可することを、強く要請します。
9. 私達は、世界の報道機関が「戦争気運」をつのり、戦争を美化するイメージや言葉を使うことをやめることを、強く要請します。

長期的には、

10. 私達は、すべての米軍が中東とペルシヤ湾から引き上げること、その地域の米軍基地を撤去すること、そして不干渉の誓約を行なうことを、強く要請します。
11. 私達は、イラクと中東の他のすべての国々への武器や軍事技術の供与を永久に中止するために、米国、ソ連、中国、ヨーロッパの国々及び他の武器供給者が交渉することを、強く要請します。
12. 私達は、節約と安全で再生可能なエネルギー資源の開発によって石油輸入への依存度を減らすような各国のエネルギー政策を支持します。
13. 私達は、中東における根深い論争の解決のためのすべての外交的努力を、強く支持します。
14. 私達は、望むらくは国連の監督下で、自己決定という民主的な過程によってクウェートの将来の地位と政権の問題を解決しようとする外交的なイニシアチブを支持します。

1990年8月27日

カナダの平和運動、報道機関、政府へ

添付したのは、国際的に回覧中の、現在の中東危機に関する声明です。この声明に盛り込まれている勧告の上に、私達は特にカナダに関して以下の勧告をつけ加えます。

1. 私達は、この地球の運命を左右する問題に対処する民主的な意志決定の過程が開始されるために、カナダ議会を即時解散することを強く要請します。
2. 私達はカナダ政府に、中東に向かっているカナダ軍を平和維持の役割にあたる統一国連軍の指揮の下に置くことを強く要請します。
3. 私達はカナダ政府に、世界平和の創造者としてのかつての役割を取り戻すことを強く要請します。私達はさらにカナダ政府に、紛争のすべての当事者に対して国連を支え国連の権限の中で行動するよう奨励すること、また政治的解決のみがその地域の恒久的な平和への唯一の希望を生むという認識をもって、現在の危機の交渉による解決を可能にするようあらゆる機構を活用することを強く要請します。

デンマン島平和グループ

カナダ、ブリティッシュ・コロンビア州